

いちのへ文化・芸術NPO×劇団地底人 舞台づくり事業『イチゲキプロジェクト』 演劇舞台公演

—上と下との瞼を合わせ 描く君の物語—

萬雷

昭和—戸萬代人情譚

作演・音楽／劇団地底人 作中作・助演／伊丹鉄塔

場所：萬代館（岩手県二戸郡一戸町一戸本町49）

日時：11月23日(土) ①14:00～ ②18:00～（2回公演、開場は開演の30分前、90分程度）

入場料：前売り1000円／当日1500円（高校生以下は一律500円）

チケット取り扱い：一戸町コミュニティセンター、一戸町内各地区センター、一守書店、三戸市民文化会館、
三戸ビックセンター、風のスタジオ ※チケットは10月からの発売

【主催】特定非営利活動法人いちのへ文化・芸術NPO

【共催】一戸町教育委員会

【主管】劇団地底人

【後援】一戸町、萬代館利活用事業実行委員会、一戸町文化協会、一戸町商工会、二戸演劇協会 雲人、二戸市民文士劇実行委員会、
カシオペアFM、NPO法人SET、岩手県立福岡高等学校演劇部、ポテトサラダ委員会、岩手日報社、デーリー東北新聞社、
IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、NHK盛岡放送局、エフエム岩手

お問い合わせ 一戸町コミュニティセンター 電話(0195-31-1400) メール(wawawa@ichi-culture.jp)

劇団地底人 メール(underworlds.act@gmail.com)

時は昭和。蒸気機関車の機関区が置かれ
最盛を誇った眠らないまち、一戸。
舞台は、一戸町の芝居小屋である、萬代館。

その小屋付きとして、今日もてんやわんやな
日々を送っているのは、「萬雷座」。彼らは
萬代館のこけら落としから共に歩んできた
芝居集団である。

カツドウ（映画）が大ヒットした黄金時代。
萬雷座の生身の芝居は見向きもされなくなり、
遠くから派遣されてきた幻灯機（映写機）の
技術屋にいじめられる日々が続いていた。
「芝居の時代は終わってしまったのだろう」
気づけば萬雷座のメンバーは散り散りになり、
解散まで秒読みの状況に……。

新作「臉の父」の試写会が迫るある日の夜。
日活の呼んだ活動弁士（映画説明士）が
行方不明になったとの電話が入る。しかも
こちらで代わりを探さなければならぬ！
一戸町は、芸術に厳しい客ばかり。
このままでは萬代館が燃やされてしまう！
管理人の山火伸太郎は、萬雷座にカツベンの
仕事を依頼するのだった……。

その頃、町の片隅で怪しく蠢く二つの影があり……。



◆物語の登場人物◆

（人情町 萬雷座）
山火一 郎
山火伸 太郎
山火ミ ツ
山火源 三
山火孝 雄
山火ひ ばり
山火マ リ
山火酒 太
山火勝 平
山火百 合子
山火丸（魚子）
山火介（鯉子）
山火アネゴ
山火トツト
山火山 宝 月
山火東 山 シゲル
山火下 斗 米 十兵衛
（劇中劇 顔の父）
ハハンの忠次郎
妹 いすず
叔父 仙吉
叔母 おゆき
転ばすの重行
薬屋 田 高
歌うたいのこよみ
金取り 一 作
金取り 雄 二
座頭 の 男

◆出演者◆

上田 和 奈
遠藤 麻 由
加茂 あか ね
川口 奈々 美
木下 傑 超
毛塚 そ ら
駒ヶ嶺 政 幸
柴田 琉 華
高下 夕カヒロ
丹 野 愛 永
橋 本 能
古 舘 航 太
本 堂 里 紗
山 井 真 帆
ほ か
◆スタッフ◆
▲制作・音楽 ▲劇団地底人
▲演出・助演 ▲伊丹 鉄 磨
▲監修・照明 ▲浪 岡 洋 一
▲吉川 真 由 美
▲鈴木 智 彦
▲上田 和 奈
▲柴田 琉 華
▲制作 ▲二戸町文化・芸術NPO
▲協力 ▲江六 前 千 佳
▲工藤 優 香
一戸町教育委員会
二戸町教育委員会
二戸町立北沢小学校
▲監修 ▲赤墨 諒 太郎

『イチゲキ！プロジェクト』とは……

一戸町の文化・芸術シーンを支え続けている『いちのへ文化・芸術NPO』と、2023年に結成された演劇プロデュースチーム『劇団地底人』がタッグを組み、2024年にスタートした舞台づくり事業となります。地域の舞台人材の育成、地域素材を生かした舞台創造、地域の文化・芸術への参加し易さ向上、という3つを目標に掲げ、表現や意匠のワークショップをはじめとし、活動を展開しております。今回は公募で集まった、小学生や高校生を含む参加者と共に、萬代館を舞台にした、演劇の舞台づくりに挑戦しました。ぜひ、お見逃しなく！



◆会場案内図◆



コミセン
公式WEB

コミセン
X/Twitter

コミセン
Instagram

劇団地底人
YouTube

劇団地底人
Facebook

劇団地底人
Instagram